

2 水稻(もち)およねもち(渡育213号)の準奨励 品種編入 (農試 技術部)

高冷地に好適する水稻もち品種がないため、工藤糯より早熟で登熟性のよいもち品種を採用し、極早生地帯の収量安定をはかる。

(1) 来歴と特性

「およねもち」は、昭和44年道立上川農業試験場において、「ふ系糯84号」(母)と「道北1号(イシカリ)」(父)の人工交配されたもののうち、上川農試の育種目標を著しく超えた糯系統を北海道立道南農試が譲り受け、同場で選抜育成されたものである。本県においては昭和52年よりはじまった、耐冷性品種選定試験の中で、昭和54年より「渡育糯213号」の地方番号で試験を行ってきた。

形態的には「工藤糯」より3~5cm短い稈長であるが、「マツマエ」より7~8cmも長く、極早生としては長稈である。穂数は「マツマエ」より少ないが、「工藤糯」よりとれやすく、草型としては中間型~偏穂数型に属する。葉巾は広く葉身も長い、生育の全期間を通じて葉身は立ち、「工藤糯」より下葉枯も少なく、草姿もよい方である。稈も太く剛く、耐倒伏性もやや強と判定される。穂長は「マツマエ」より長く、「工藤糯」より短い。粒着はやや密である。

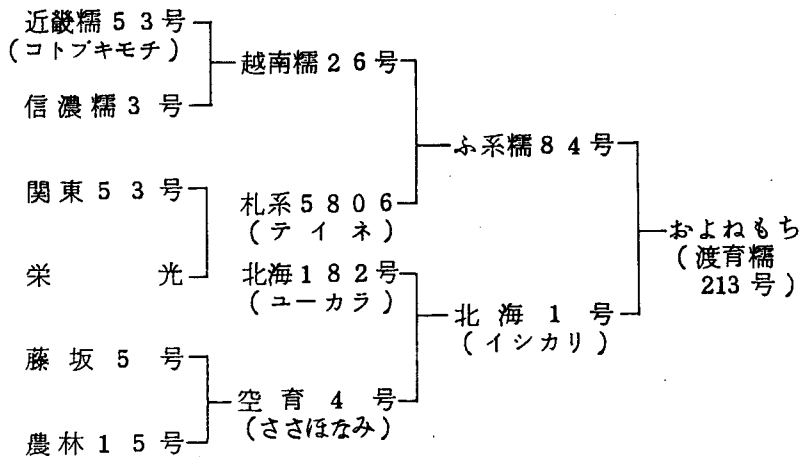


図1 「およねもち」の系譜

出穂期は「工藤糯」に比べ、3~4日、成熟期では5日前後早い。いもち病抵抗性遺伝子はPi-a、kを持つと推定される。圃場抵抗性については、穂いもち耐病性は、本県では「工藤糯」より強いと見られたが、北海道では「工藤糯」よりやや弱く、葉いもちと同様中程度である。障害型に対する耐冷性は、「工藤糯」並

からやや弱く、中~やや強にランクされる。収量は「工藤糯」より多収で、「マツマエ」並かやや少ないが、極早生糯品種としては多収性である。

表1 特性調査

品 種 名	稈		芒 の 少 多	稈 色	稈 先 色	粒 着	脱粒性 の難易	粒	
	細 太	剛 柔						形 状	大 小
およねもち 工 藤 糯 マツマエ	太 太 太	剛 中 剛	無 無 無	黄白 黄白 黄白	黄白 黄白 黄白	やや密 密 やや密	難 難 難	中～やや長 やや円 中	中～やや大 やや小 中

表2 品質調査

品 種 名	梗 糯	5 6 年 産 完 全 粒	光 沢	粒 色	粒 揃	品 質
		長さ×幅×厚さ				
およねもち	糯	5.45 × 3.14 × 2.33 ^{mm}	中	蠟 白	良	中 中
工 藤 糯	〃	4.78 × 3.05 × 2.22	中	〃	中	中中～中下
マツマエ	梗	5.41 × 3.20 × 2.27	中～やや良	やや濃飴	良	中 上

(2) 適応地帯と栽培との注意点

「マツマエ」より出穂期、成熟期とも5～7日遅いため、県中南部では標高450mまで、県北部では標高350m程度までの水田で栽培するのが安全であると考え。また、県中南部の平坦部で栽培すると、不時出穂をしたり、栄養生長が不十分のまま出穂し、極度に低収となるので、水口以外では栽培しない方がよい。

「およねもち」は、倒伏抵抗性は強い方であるが、葉身が長く、葉幅も広いので、極端な多肥では草姿が乱れ、受光姿勢を悪化させる。また、窒素を遅く追肥したり、遅効きになると止葉が長くなるので追肥等に注意する。基肥は「マツマエ」並かやや少なめの方が無難である。いもち病(葉いもち、穂いもち)耐病性は強くないので、適期に徹底防除を行うこと。障害不稔に対する耐冷性は、やや強に属するが、穂孕期の低温には、深水管理を行うこと。また、障害不稔が多発した場合は割穂が発生し、着色粒発生の原因となるので、特に刈取時期が遅くならないように注意する。他の糯品種に比べ、特にハゼは悪くないが、乾燥を充分行い、ハゼをよくし品質の向上を図る。「わせとらもち」や「サカキモチ」のように稈先色がないので、梗品種と間違わないように取扱うこと。

これまで「南糯」等を栽培していた地域、あるいは「工藤糯」の熟期が遅いと思われる地域や、耐倒伏性やいもち病耐病性が弱く、極早生糯品種を栽培していなかった地域では、この品種の栽培が可能であると考え。

表3 生育・収量調査(一戸町 奥中山)

品種名	年次	出穂期 (月・日)	成熟時			倒伏	いもち		玄米重 (kg/a)	同左対 標比 %	千粒重 (g)	品質	一穂 着粒数	m ² 収量 (千粒)	登熟歩 合(%)
			稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²		葉	稔							
およねもち	54	8.8	72	16.8	479	0	△	△	57.2	101	21.2	中上	70.4	34.3	82.0
	55	19	65	15.3	559	0	ビ	ビ	(4.3)	(32)	—	—	—	—	—
	56	12	75	18.9	476	0.6	△	ビ~少	48.8	98	21.9	中下	81.3	38.7	55.2
	平均	8.13	71	17.0	505	0.2			53.0	100	21.6	中中	75.9	36.5	68.6
工藤糯	54	8.13	81	18.7	442	0	△	△	63.4	111	19.3	中中	87.5	38.7	84.5
	55	21	69	15.8	518	0	中	中	(0.1)	—	—	—	—	—	—
	56	17	76	22.1	473	1.8	△	△	35.5	72	17.2	下中	101.2	47.9	23.0
	平均	8.17	75	18.8	478	0.6			50.0	92	18.3	中下 ~ 下上	94.4	43.3	53.8
マツマエ	54	8.3	61	15.9	563	0	△	△	56.9	100	22.0	中上	59.3	33.5	77.6
	55	9	58	16.4	656	0	ビ	ビ	(15.2)	(100)	(21.5)	—	—	—	—
	56	10	66	17.8	568	0	△	ビ	49.6	100	23.5	中下	72.1	41.0	49.4
	平均	8.7	62	16.7	596	0			53.3	100	22.8	中中	65.7	37.3	63.5

3 水稻(うるち)ハマアサヒの限定指導品種の経続採用

昭和56年に採用したハマアサヒは、栽培した成果が良好なため、さらに一年限定指導品種として経続採用する。とくに本年は安全栽培を基本とし、いもち病防除の徹底を期す。